

第 83 回北摂小児科医会プログラム

日時：平成 29 年 12 月 9 日（土）午後 3 時

場所：済生会千里病院 災害管理棟 4F 講堂

〒565-0862 大阪府津雲台 1 丁目 1 番 6 号
TEL：06-6871-0121（代表）

共催
北摂小児科医会
Meiji Seika ファルマ株式会社

第 83 回北摂小児科医会 プログラム

◇話題提供(15:00～15:10)

「オラペネム小児用細粒 10%について」

Meiji Seika ファルマ株式会社

◇一般演題(15:10～16:10)

座長 森本 恭子 先生 (済生会千里病院 小児科 部長)

1. サルモネラ 08 感染症により副腎クリーゼをきたした下垂体前葉機能低下症の 1 例

箕面市立病院小児科

○石見 壮史、山本 威久、天羽 竜子、新田 統昭、
櫻井 美帆子、山田 知絵子、榊原 杏美、東 純史、
溝口 好美、下辻 常介

症例は 21 歳男性。第 1 病日からの嘔気、水様便、倦怠感あり。第 2 病日に 40℃の発熱のため当院受診。血糖値 64mg/dl、血圧 87/48mmHg と副腎クリーゼとしてソルコーテフ 500mg 投与した。検査値は CRP1.73、WBC8000 とウイルス感染を疑った。第 8 病日の血液培養からサルモネラ 08 が検出されサルモネラ菌血症が副腎クリーゼの原因である可能性が考えられた。

副腎クリーゼで炎症マーカーの上昇が軽度の腸炎を示す場合はサルモネラ感染の可能性も考慮すべきであると考えられた。

2. 抗 NMDA 受容体脳炎の 5 歳女児

西宮市立中央病院

○門谷 眞二

症例は 5 歳女児。発熱、頭痛といった感冒症状の後に笑い発作、夜間不眠、意味不明な行動、退行症状あり、近医で腹部腫瘍を認め紹介となった。当院に川崎病で入院歴があり定期的なフォロー中であつたが何を言っているのかわからない状況で意思の疎通が全くできず脳炎を疑い兵庫県立こども病院に紹介した。卵巣の奇形腫による抗 NMDA 受容体脳炎で腫瘍摘出術、免疫療法で治癒した症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

3. 乳児期に機能的半球離断術を施行した 2 例

大阪市立総合医療センター 小児神経内科¹⁾ 小児脳神経外科²⁾

○金 聖泰¹⁾、川脇 壽¹⁾、福岡 正隆¹⁾、井上 岳司¹⁾、温井 めぐみ¹⁾、九鬼 一郎¹⁾、
岡崎 伸¹⁾、國廣 誉世²⁾、宇田 武弘²⁾、松阪 康弘²⁾

【症例 1】日齢 20 に焦点発作で発症した左片側巨脳症の女児。抗てんかん薬の効果は一過性であり発達の停滞も認め、生後 10 か月で左半球離断術を施行し以降発作なし。【症例 2】生後 2 か月に焦点発作で発症した左半球の広汎な皮質形成異常の女児。内服加療も発作はスパズムスに移行。

生後4か月で左半球離断術を施行し以降発作なし。【考察】てんかん原生領域が広く一側半球に及ぶ難治てんかんでは、早期に半球離断術を考慮する。

4. 出生後の頭部超音波検査で発見されたガレン大静脈瘤の一例

兵庫県立尼崎総合医療センター 新生児内科

○吉田淳史、西田吉伸

ガレン大静脈瘤は出生後に致死的な経過をたどりうる、稀な脳血管奇形の一つである。今回、心雑音・皮膚色不良を主訴に近医から紹介となり、搬送後のスクリーニング検査にてガレン大静脈瘤を発見した症例を経験した。在胎週数38週、出生体重3084g、アプガースコア10/10、胎児期には特に異常を指摘されていなかった。急速に進行する心不全のため日齢5に死亡した。上記症例について文献的考察を加えて報告する。



----- コーヒータイム -----

(16:10～16:20)



◇一般演題(16:20～17:05)

座長 瀬戸 眞澄 先生 (済生会千里病院 小児科 主任部長)

5. 当院における血球貪食症候群23例の臨床的検討

大阪市立総合医療センター 小児救急科

○原田 佳恵子、外川 正生、天羽 清子、宮下 光洋、豊田 なつみ、入江 稜子

2009年10月から2017年9月までの8年間に、当院で加療した15歳以下の血球貪食症候群患者の23例について検討した。男女比は8:15で、原因はウイルスが16例と最多で、家族性は2例であった。重症化した11例のうち、8例はウイルス、1例が家族性、1例が悪性腫瘍、1例が原因不明であった。ウイルスではEBウイルスが9例を占め、3例が重症化した。EBVゲノムコピー数と重症化において相関はなく、様々な臨床経過をたどっていた。

6. 川崎病患者における冠動脈病変及び再発予測に関する検討

箕面市立病院小児科¹⁾、大阪大学医学部小児科²⁾

○山本威久¹⁾、溝口好美¹⁾、新田統昭¹⁾、天羽竜子¹⁾、櫻井美帆子¹⁾、山田知絵子¹⁾、石見壮史¹⁾

東純史¹⁾、木島衣理¹⁾、下辻常介¹⁾、杉辺英世²⁾、桂聡哉²⁾、橋本和久²⁾

川崎病における冠動脈病変(CAL)及び再発の予測法について検討した。対象は、箕面市立病院小児科で2014年4月から2017年4月まで入院治療した小児で川崎病症状を4個以上呈した患者132例。CAL予測: CRP7mg/dl以上および再発あり。再発予測: すべての臨床症状有または尿中logβ2MG/Cr値3.5μg/gCr以上。今回の結果からCAL及び再発予測が可能であることが明らかとなった。

7. 小児科患者への臨床心理士介入実績について

大阪府済生会千里病院 臨床心理室¹⁾ 小児科²⁾

○須磨知美¹⁾ 瀬戸真澄²⁾ 森本恭子²⁾ 吉田敏子²⁾

小児科から臨床心理士に介入依頼のあった 52 例を対象に検討を行った。主訴は①不登校 40%②身体症状 35%③発達相談 31%の順に多かった。61%が継続し殆どが改善したが、保護者のみ来院した 7%は改善しなかった。単回で終わった 39%は発達相談や治療動機が低いものであった。主訴・症状問わず、明らかに改善を認めた例では、本人の相談が継続されていた事より、本人の治療意欲が改善に大きく寄与していると考えられる。



コーヒータイム

(17:05～17:15)



◇総会 (17:15～17:25)

◇特別講演(17:25～18:25)

座長 瀬戸 真澄先生 (済生会千里病院 小児科 主任部長)

演者 大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 講師 川村 智行 先生

『小児科診療における動機付け面接の応用』

私は、糖尿病診療に関わって 30 年です。治療の進歩は急速ですが、患者さんに取り組む意欲が無いと無意味です。私自身、10 年前に動機付け面接(MI)に出会うまでは、説得したり、叱ったりしました。

MI は、アルコール依存で発達し、医療、司法、教育などの広い分野で用いられています。私も MI によって患者さん自ら変わっていくことを実感できるようになりました。この講演では、一般外来における MI の応用について紹介させていただきます。



- ・ 阪急千里線「南千里駅」下車すぐ
- ・ 阪急電車 梅田駅から約 30 分
- ・ 地下鉄堺筋線天神橋筋 6 丁目駅より約 20 分
- ・ 北大阪急行線桃山台駅からバスで約 10 分

※病院本館ではなく、正面入り口向かって右手の災害管理棟ですので、ご注意ください。

※当日、お車でお越しの際、病院駐車場へ駐車された方には受付にて駐車券を無料にさせていただきます。

